

# 定 期 作 況 報 告

平成22年11月(訂正版)  
(11月20日現在・最終)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 融雪期以降の経過

**4月**：上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬は低く、下旬は極めて低かった。4月の月平均気温は2.9℃で平年よりやや低かった(-1.2℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中旬は少なく、下旬は平年並で、月合計は41.5mmでやや少なかった。上・中旬の日照時間は平年並で、下旬は平年よりやや少なく、月合計は164.9時間で平年並であった。

**5月**：上旬の平均気温は平年並で、中旬は平年より低く、下旬は極めて低かった。5月の月平均気温は9.2℃で平年よりやや低かった(-1.4℃)。上旬の降水量は平年より多く、中旬はやや少なく、下旬は多く、月合計は66.0mmで平年よりやや多かった。上・中旬の日照時間は平年並で、下旬は多く、月合計は166.9時間で平年並であった。

**6月**：上旬の平均気温は平年よりやや低く、中旬・下旬は極めて高かった。6月の月平均気温は18.0℃で平年より極めて高かった(+2.9℃)。上旬の降水量は平年より少なく、中旬はやや多く、下旬は極めて多く、月合計は89.5mmで平年より多かった。上旬の日照時間はやや多く、中旬は極めて多く、下旬は多く、月合計は225.9時間で平年より多かった。

**7月**：平均気温は各旬とも平年より高かった。7月の月平均気温は19.7℃で平年より高かった(+1.9℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬は平年並で、下旬は少なく、月合計は125.0mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年より少なく、中旬はやや多く、下旬はやや少なく、月合計は91.2時間で平年よりやや少なかった。

**8月**：平均気温は各旬とも平年より極めて高かった。8月の月平均気温は22.3℃で平年より極めて高かった(+2.9℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中旬は平年並で、下旬は極めて多く、月合計は141.0mmで平年よりやや多かった。日照時間は各旬とも平年並で、月合計は133.6時間で平年並であった。

**9月**：上旬の平均気温は平年より高く、中旬はやや高く、下旬はやや低かった。9月の月平均気温は16.1℃で平年よりやや高かった(+1.1℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中・下旬は少なく、月合計は69.5mmで平年より少なかった。上・中旬の日照時間は平年よりやや多く、下旬は平年並で、月合計は171.3時間で平年並であった。

**10月**：上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬は平年並で、下旬はやや低かった。10月の月平均気温は8.9℃で平年並であった(+0.4℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中・下旬は平年並で、月合計は61.5mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年並で、中旬は平年より少なく、下旬はやや多く、月合計は162.3時間で平年並であった。

**11月**：上旬の平均気温は平年並で、中旬はやや高かった。中旬までの平均気温は3.1℃で平年並であった(+0.4℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬は少なく、中旬までの合計は49.0mmで平年より多かった。上旬の日照時間は平年より少なく、中旬は多く、中旬までの合計は91.5時間で平年並であった。

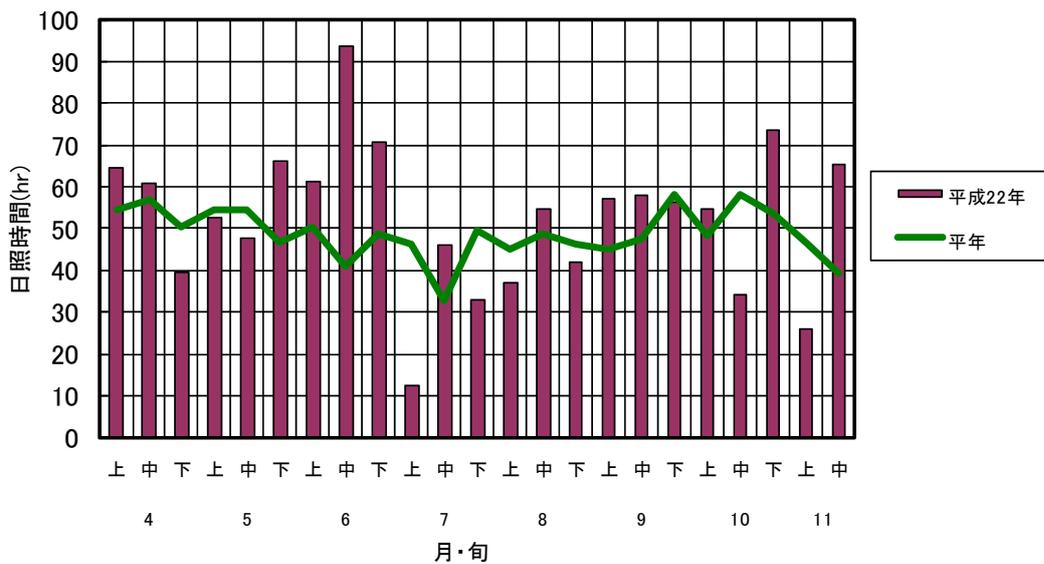
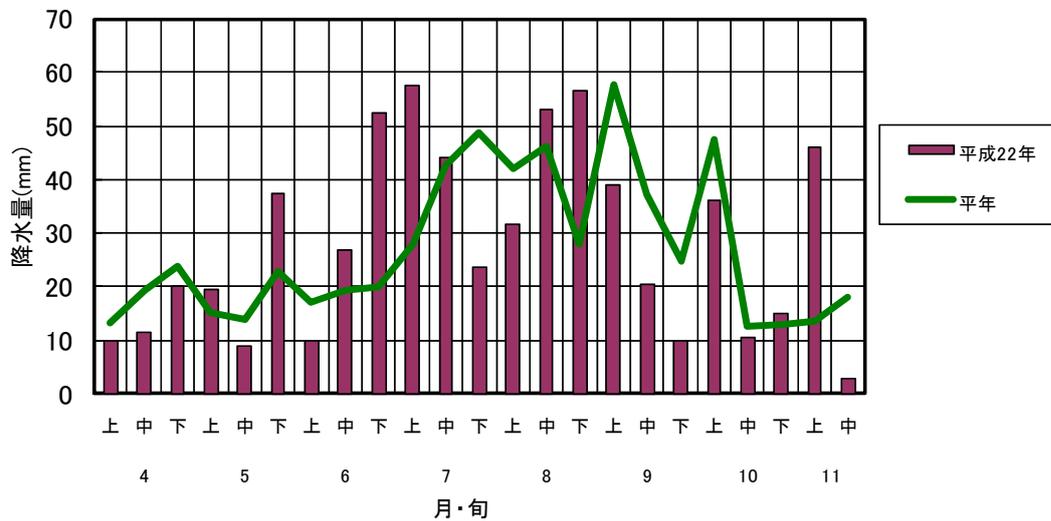
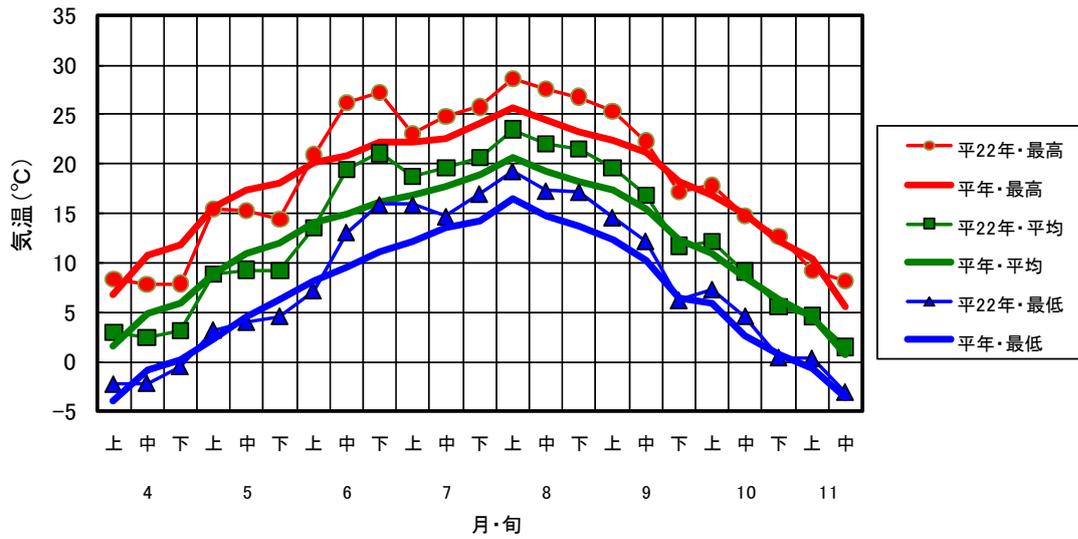
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温**：5月は平年よりやや低く、6月は極めて高く、7月は平年より高く、8月は平年より極めて高く、9月は平年よりやや高かった。この期間の日平均気温の積算値は2607.0℃で過去10年になく、記録的に高かった(平年対比+221.9℃)。

**降水量**：5月は平年よりやや多く、6月は平年より多く、7月は平年並で、8月はやや多く、9月は平年より少なかった。この期間の降水量の積算は491.0mmで平年並であった(平年対比+27.4mm)。

**日照時間**：5月は平年並で、6月はやや多く、7月はやや少なく、8月・9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は788.9時間で平年並であった(平年対比+70.6時間)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

月・旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較										
4	上	3.0	1.6	1.4	8.3	6.8	1.5	-2.3	-4.0	1.7	10.0	13.3	△3.3	64.6	54.4	10.2
	中	2.5	4.8	△2.3	7.8	10.8	△3.0	-2.2	-0.8	△1.4	11.5	19.2	△7.7	60.9	56.8	4.1
	下	3.2	6.0	△2.8	7.9	11.9	△4.0	-0.5	0.2	△0.7	20.0	23.9	△3.9	39.4	50.6	△11.2
5	上	8.9	8.8	0.1	15.5	15.7	△0.2	3.2	2.2	1.0	19.5	15.3	4.2	52.7	54.6	△1.9
	中	9.3	10.9	△1.6	15.3	17.4	△2.1	4.0	4.5	△0.5	9.0	13.9	△4.9	47.8	54.5	△6.7
	下	9.2	12.0	△2.8	14.4	18.1	△3.7	4.6	6.3	△1.7	37.5	22.8	14.7	66.4	46.9	19.5
6	上	13.5	14.1	△0.6	20.9	20.2	0.7	7.2	8.1	△0.9	10.0	17.2	△7.2	61.3	50.5	10.8
	中	19.4	14.9	4.5	26.2	20.8	5.4	13.1	9.5	3.6	27.0	19.3	7.7	93.8	40.8	53.0
	下	21.1	16.2	4.9	27.3	22.2	5.1	15.9	11.1	4.8	52.5	20.0	32.5	70.8	48.6	22.2
7	上	18.8	16.9	1.9	23.1	22.2	0.9	15.9	12.1	3.8	57.5	27.9	29.6	12.3	46.2	△33.9
	中	19.6	17.7	1.9	24.8	22.5	2.3	14.7	13.6	1.1	44.0	42.6	1.4	45.9	32.8	13.1
	下	20.7	18.9	1.8	25.8	24.1	1.7	17.0	14.3	2.7	23.5	48.8	△25.3	33.0	49.6	△16.6
8	上	23.5	20.6	2.9	28.6	25.7	2.9	19.3	16.5	2.8	31.5	41.9	△10.4	37.1	45.1	△8.0
	中	22.0	19.3	2.7	27.6	24.5	3.1	17.3	14.8	2.5	53.0	46.3	6.7	54.7	48.9	5.8
	下	21.5	18.3	3.2	26.8	23.3	3.5	17.2	13.7	3.5	56.5	28.0	28.5	41.8	46.3	△4.5
9	上	19.6	17.3	2.3	25.3	22.4	2.9	14.6	12.3	2.3	39.0	57.7	△18.7	57.0	44.9	12.1
	中	16.8	15.5	1.3	22.3	21.1	1.2	12.2	10.2	2.0	20.5	37.1	△16.6	58.0	47.7	10.3
	下	11.7	12.3	△0.6	17.2	18.3	△1.1	6.2	6.5	△0.3	10.0	24.7	△14.7	56.3	58.0	△1.7
10	上	12.2	11.0	1.2	17.8	16.8	1.0	7.3	6.0	1.3	36.0	47.6	△11.6	54.7	48.3	6.4
	中	9.1	8.6	0.5	14.8	15.0	△0.2	4.6	2.7	1.9	10.5	12.6	△2.1	34.0	58.1	△24.1
	下	5.6	6.2	△0.6	12.7	12.2	0.5	0.4	0.7	△0.3	15.0	13.1	1.9	73.6	53.7	19.9
11	上	4.6	4.6	0.0	9.2	10.4	△1.2	0.3	-0.7	1.0	46.0	13.5	32.5	26.0	46.8	△20.8
	中	1.5	0.7	0.8	8.2	5.6	2.6	-3.1	-3.7	0.6	3.0	17.9	△14.9	65.5	39.4	26.1

注) 観測値は気象庁ホームページの気象統計情報で公開している置戸町境野のアメダスによる。  
 観測統計の解説は<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html>を参照。  
 本年の値は確定前の速報値を含む。平年値は前10か年の平均値である。  
 本年10月中旬の日照時間は信頼性がやや劣る準正常値である。

### 4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	H21年 12.11	4.11	122	5.4	4.29	5.31	10.18	139	10.26	2607.0	491.0	788.9
平年	12.4	4.11	129	4.27	5.2	5.10	10.10	152	10.31	2385.1	463.6	718.3
比較	7	0	△7	7	△3	21	8	△13	△5	221.9	27.4	70.6

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。  
 平年値は前10カ年データの平均値である。

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（平成21年9月播種） 作 況：不良

事 由：播種は平年より3日早く行った。播種後の気象条件は良好で、出芽期は平年より2日早かった。9月中下旬の降水量は平年より少なく土壌が乾燥気味であったため、出芽はややばらついた。しかし、10月以降は適度な降雨があり、気温もほぼ平年並に推移したため、生育は斉一となった。越冬前の草丈は平年をやや下回り、茎数はやや多かった。根雪期間は平年より短く、雪腐病の発生はごく軽微で、生育への影響は無かった。

融雪期以降は低温傾向が続いたことから草丈は低く、生育は緩慢に推移し、出穂期は平年より4日遅かった。6月中旬以降は一転して平均気温が高く推移したことから生育は回復し、稈長、穂長はほぼ平年並みで穂数はやや多かった。登熟期間中の平均気温も平年より高かったため登熟が促進され、成熟期は平年より6日早い7月20日であった。倒伏は極めて軽微であったが、登熟期間が平年より10日短くなったことから子実は充実不足となった。検査等級は平年並の1等であったが、子実重は平年比94%と少なく、リットル重ならびに千粒重も平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目		ホクシン		
		本年	平年	比較
播種期	(平成21年月.日)	9.15	9.18	△3
出芽期	(平成21年月.日)	9.23	9.25	△2
出穂期	(平成22年月.日)	6.13	6.9	4
成熟期	(平成22年月.日)	7.20	7.26	△6
草丈(cm)	(平成21年11月20日)	17.3	18.9	△1.6
	(平成22年5月20日)	35.2	39.3	△4.1
	(平成22年6月20日)	80.8	93.1	△12.3
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(平成21年11月20日)	1925	1724	201
	(平成22年5月20日)	1443	1393	50
	(平成22年6月20日)	828	747	81
稈長(cm)	(成熟期)	83	85	△2
穂長(cm)	(成熟期)	8.7	8.3	0.4
穂数(本/m <sup>2</sup> )	(成熟期)	782	716	66
子実重(kg/10a)		577	616	△39
同上平年比(%)		94	100	△6
リットル重(g)		772	803	△31
千粒重(g)		32.6	37.4	△4.8
品質(検査等級)		1	1	—

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦(平成22年9月播種) 作 況 : 平年並

事 由 : 播種は平年より1日早い9月16日に行った。出芽期は平年より1日早い9月24日に出芽は良好であった。出芽期以降の平均気温は概ね平年並からやや高め、降水量は概ね平年並みからやや少なめに推移した。越冬前の草丈は平年より高く、茎数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン			きたほなみ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (平成22年月.日)	9.16	9.17	△1	9.16	9.16	0
出芽期 (平成22年月.日)	9.24	9.25	△1	9.24	9.24	0
草丈(cm) (平成22年11月20日)	24.5	17.3	7.2	24.5	18.7	5.8
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (平成22年11月20日)	1669	1661	8	1621	1684	△63

注) 「ホクシン」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。

注) 「きたほなみ(参考)」の平年値は前6か年の平均。

### 3) 春まき小麦

作 況 : 不良

事 由:融雪期は平年並の4月11日であった。播種は平年より3日早い4月19日に行った。播種後、4月下旬の気温が平年より極めて低く推移したため、出芽期は平年より1日遅かった。出芽後も5月中旬の気温が平年より低く推移したことから、草丈、茎数は平年をやや下回ったが、6月中旬以降は、気温が高く、日照時間も多かったため生育が回復し、6月の草丈は平年より低かったものの、茎数は平年並となった。

6月中旬以降の高温により、出穂期・稈長・穂長・穂数は平年並となった。成熟期は平年より7～8日早く、登熟期間は平年より短くなった。「春よ恋」において倒伏がわずかに発生した。開花期にあたる6月下旬から7月上旬が高温多湿であったため赤かび病の発生が目立った。子実重は「ハルユタカ」で平年比83%、「春よ恋」で86%と平年を大きく下回った。リットル重、千粒重も平年を大きく下回り、検査等級は2等であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.19	4.22	△ 3	4.19	4.22	△ 3	
出芽期 (月.日)	5.6	5.5	1	5.6	5.5	1	
出穂期 (月.日)	6.23	6.23	0	6.22	6.23	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.2	8.9	△ 7	7.31	8.8	△ 8	
草丈 (cm)	(5月20日)	12.3	14.2	△ 1.9	13.2	14.8	△ 1.6
	(6月20日)	56.7	65.1	△ 8.4	58.9	66.6	△ 7.7
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	(5月20日)	322	357	△ 35	332	371	△ 39
	(6月20日)	812	767	45	828	784	44
稈長 (cm) (7月20日)	83	81	2	86	86	0	
穂長 (cm) (7月20日)	8.5	8.2	0.3	8.5	8.3	0.2	
穂数 (本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	484	504	△ 20	521	497	24	
子実重 (kg/10a)	348	420	△ 72	395	457	△ 62	
同上平年比 (%)	83	100	△ 17	86	100	△ 14	
リットル重 (g)	784	812	△ 28	789	813	△ 24	
千粒重 (g)	37.0	40.3	△ 3.3	36.4	42.2	△ 5.8	
品質 (検査等級)	2	2	—	2	1	—	

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

## 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 良

事 由 : 播種期は平年より2日遅い5月18日で、出芽期は平年より4日遅い6月3日であった。6月中旬から9月中旬にかけて全般的に高温傾向で推移したため、6月20日の草丈と葉数は平年並であったが、7月20日の草丈と葉数は平年を上回り、開花期と抽糸期はともに平年より7日早かった。収穫期は平年と同日の9月22日で、収穫時の子実の熟度は黄熟中期と平年より登熟がやや進み、総体の乾物率は平年より高かった。乾物茎葉重、乾物雌穂重ともに平年より多く、乾物総重ならびに推定TDN収量は平年対比111%といずれも平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.18	5.16	2	
出芽期 (月・日)	6.3	5.30	4	
開花期 (月・日)	7.29	8.5	△7	
抽糸期 (月・日)	7.29	8.5	△7	
収穫期 (月・日)	9.22	9.22	0	
収穫期の熟度	黄熟中期	黄熟初～中期		
草丈(cm)	(6月20日)	32.9	30.9	2.0
	(7月20日)	233.1	146.0	87.1
	(8月20日)	318.4	298.5	19.9
稈長(cm)	(9月20日)	284	267	17
葉数(枚)	(6月20日)	5.0	4.6	0.4
	(7月20日)	12.9	12.0	0.9
	(8月20日)	14.7	14.8	△0.1
生総重(kg/10a)	6445	6619	△174	
乾物茎葉重(kg/10a)	1011	936	75	
乾物雌穂重(kg/10a)	1113	985	128	
乾物総重(kg/10a)	2124	1921	203	
同上平年比(%)	111	100	11	
推定TDN収量(kg/10a)	1534	1382	152	
同上平年比(%)	111	100	11	
総体の乾物率(%)	33.0	29.2	3.8	
乾雌穂重割合(%)	52.4	51.2	1.2	
有効雌穂割合(%)	100.0	100.0	0.0	

注 1) 平年値は前6か年の平均(供試品種を変更したため)。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

## 5) 大豆

作 況：やや良

事 由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後の平均気温は平年より低かったため、出芽期は平年より6日遅れた。しかし、出芽後の平均気温は高かったことから、生育は早く進み、開花始は平年より7日早かった。7月中旬以降の気温も高かったため、開花、着莢、登熟は順調に推移した。成熟期は平年より、「トヨコマチ」で5日、「ユキホマレ」で13日、それぞれ早かった。成熟期における着莢数はほぼ平年並であったが、百粒重は平年を大きく上回り、子実重は、「トヨコマチ」が平年比115%、「ユキホマレ」が同103%であった。品質も平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2	
出芽期 (月.日)	6.12	6.6	6	6.13	6.7	6	
開花始 (月.日)	7.13	7.20	△ 7	7.13	7.20	△ 7	
成熟期 (月.日)	9.21	9.26	△ 5	9.16	9.29	△ 13	
主茎長 (cm)	(6月20日)	10.8	9.6	1.2	9.7	8.8	0.9
	(7月20日)	62.0	43.3	18.7	57.4	42.3	15.1
	(8月20日)	64.1	63.3	0.8	64.3	61.8	2.5
	(9月20日)	65.7	62.6	3.1	63.5	62.1	1.4
	(成熟期)	65.7	62.6	3.1	63.5	62.1	1.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.4	0.7	0.7	1.3	0.6	0.7
	(7月20日)	8.5	6.5	2.0	7.9	6.4	1.5
主茎節数	(8月20日)	10.3	11.3	△ 1.0	10.7	11.2	△ 0.5
	(9月20日)	10.4	11.4	△ 1.0	10.3	11.2	△ 0.9
	(成熟期)	10.4	11.4	△ 1.0	10.3	11.2	△ 0.9
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.7	3.1	2.6	4.9	2.7	2.2
	(8月20日)	4.3	5.8	△ 1.5	3.9	5.3	△ 1.4
	(9月20日)	4.5	5.5	△ 1.0	3.7	5.0	△ 1.3
	(成熟期)	4.5	5.5	△ 1.0	3.7	5.0	△ 1.3
着莢数 (個/株)	(8月20日)	77.6	66.1	11.5	67.7	63.8	3.9
	(9月20日)	65.0	63.8	1.2	66.3	68.2	△ 1.9
	(成熟期)	65.0	62.7	2.3	66.3	68.2	△ 1.9
子実重 (kg/10a)	401	349	52	386	373	13	
同上平年比 (%)	115	100	15	103	100	3	
百粒重 (g)	38.6	33.9	4.7	39.2	34.2	5.0	
屑粒率 (%)	0.3	1.7	△ 1.4	0.0	1.7	△ 1.7	
品質 (検査等級)	2上	3上	—	2中	2下	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 6) 小豆

作 況：平年並

事 由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後の平均気温は平年より低かったため、出芽期は平年より3日遅れた。しかし、出芽後の平均気温は高かったことから、生育は早く進み、開花始は平年より6日早かった。7月中旬以降の気温も高かったため、開花、着莢、登熟は順調に推移した。成熟期は平年より、「サホロショウズ」で14日、「エリモショウズ」で21日、それぞれ早かった。成熟期における着莢数は平年を大きく上回ったが、登熟期間が高温であったため、百粒重は平年を下回った。また、一莢内粒数も平年を下回り、子実重は、「サホロショウズ」が平年比105%、「エリモショウズ」が同99%であった。品質は平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2	
出芽期 (月.日)	6.12	6.9	3	6.13	6.10	3	
開花始 (月.日)	7.18	7.24	△6	7.20	7.26	△6	
成熟期 (月.日)	9.5	9.19	△14	9.10	10.1	△21	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.2	3.5	△0.3	3.8	3.5	0.3
	(7月20日)	31.2	14.6	16.6	27.0	15.3	11.7
	(8月20日)	97.0	58.5	38.5	79.6	62.5	17.1
	(9月20日)	113.8	63.2	50.6	88.1	68.2	19.9
	(成熟期)	113.8	63.2	50.6	88.1	68.2	19.9
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.0	0.3	0.7	0.9	0.2	0.7
	(7月20日)	8.5	5.5	3.0	8.6	5.5	3.1
主茎節数	(8月20日)	14.2	11.9	2.3	14.3	13.1	1.2
	(9月20日)	14.4	12.4	2.0	14.4	13.9	0.5
	(成熟期)	14.4	12.4	2.0	14.4	13.9	0.5
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.2	1.6	3.6	4.9	1.4	3.5
	(8月20日)	5.4	5.3	0.1	5.5	4.9	0.6
	(9月20日)	5.1	4.4	0.7	4.8	4.4	0.4
	(成熟期)	5.1	4.4	0.7	4.8	4.4	0.4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	84.2	52.6	31.6	88.5	38.1	50.4
	(9月20日)	71.0	56.7	14.3	68.0	51.9	16.1
	(成熟期)	71.0	57.4	13.6	68.0	52.9	15.1
一莢内粒数	5.40	5.58	△0.18	5.91	6.58	△0.67	
子実重 (kg/10a)	417	398	19	434	438	△4	
同上平年比 (%)	105	100	5	99	100	△1	
百粒重 (g)	14.2	15.1	△0.9	12.9	15.0	△2.1	
屑粒率 (%)	1.8	2.4	△0.6	1.2	3.0	△1.8	
品質 (検査等級)	3上	3下	—	3上	4中	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 7) 菜豆

作 況：平年並

事由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後の平均気温は平年より低かったため、出芽期は平年より4～5日遅れた。しかし、出芽後の平均気温は高かったことから、生育は回復し、開花始はほぼ平年並であった。7月中旬以降の気温も高かったため、開花、着莢、登熟は順調に推移した。成熟期は平年より、「大正金時」で7日、「福勝」で3日、それぞれ早かった。成熟期における着莢数は平年をやや上回ったが、百粒重と一莢内粒数は、「大正金時」はほぼ平年並であったが、「福勝」は平年を下回った。子実重は、「大正金時」が平年比111%、「福勝」が同92%であった。品質は、「大正金時」は平年並であったが、「福勝」は色浅粒の発生が多く平年より劣った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2	
出芽期 (月.日)	6.11	6.6	5	6.12	6.8	4	
開花始 (月.日)	7.5	7.6	△ 1	7.7	7.8	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.27	9.3	△ 7	9.5	9.8	△ 3	
草丈 (cm)	(6月20日)	8.7	10.1	△ 1.4	8.4	9.2	△ 0.8
	(7月20日)	49.5	36.9	12.6	51.7	37.4	14.3
	(8月20日)	53.0	39.6	13.4	55.3	41.2	14.1
	(9月20日)	53.3	41.2	12.1	62.3	43.5	18.8
	(成熟期)	53.3	41.2	12.1	62.3	43.5	18.8
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.4	0.8	0.6	1.4	0.8	0.6
	(7月20日)	3.0	3.4	△ 0.4	3.3	3.6	△ 0.3
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.3	△ 0.3	5.1	5.6	△ 0.5
	(9月20日)	5.0	5.3	△ 0.3	5.2	5.5	△ 0.3
	(成熟期)	5.0	5.3	△ 0.3	5.2	5.5	△ 0.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.3	4.1	1.2	6.1	3.9	2.2
	(8月20日)	5.2	4.9	0.3	5.4	4.6	0.8
	(9月20日)	5.0	4.3	0.7	5.2	4.0	1.2
	(成熟期)	5.0	4.3	0.7	5.2	4.0	1.2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	21.8	22.4	△ 0.6	21.8	20.7	1.1
	(9月20日)	21.5	20.2	1.3	19.5	18.7	0.8
	(成熟期)	21.5	20.2	1.3	19.5	18.7	0.8
一莢内粒数	3.09	3.12	△ 0.03	2.91	3.12	△ 0.21	
子実重 (kg/10a)	373	337	36	352	382	△ 30	
同上平年比 (%)	111	100	11	92	100	△ 8	
百粒重 (g)	72.9	75.4	△ 2.5	84.9	91.5	△ 6.6	
屑粒率 (%)	2.2	6.0	△ 3.8	4.9	5.3	△ 0.4	
品質 (検査等級)	3上	3上	—	4上	3上	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

## 8) ばれいしょ

作 況：やや不良

事 由：植え付けは「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年より3日早い5月10日に行った。植え付け後、気温が平年よりかなり低く推移したことから、萌芽期は平年より遅かったが、その後の気温の回復と6月下旬の著しい高温の影響で生育ステージが進み、開花始は平年より早かった。6月下旬から7月上旬の著しい多雨以降、枯ちよう期まで土壌が常に湿潤な状態だったことから、茎長は平年を大きく上回ったが、地上部は徒長気味であり、旺盛な生育とは言えなかった。7月以降も高温に経過したため、枯ちよう期は平年より早かった。

「コナフブキ」は、上いも数、上いも重とも平年並であったが、「男爵薯」では、上いも数が少なかったことから上いも重は平年をやや下回った。でん粉価は、6月下旬以降、長期にわたり土壌が湿潤な状態であった影響を受け、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を下回った。このため、「コナフブキ」のでん粉重は平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.10	5.13	△ 3	5.10	5.13	△ 3	
萌芽期 (月.日)	6.3	6.2	1	6.8	6.4	4	
開花始 (月.日)	6.26	6.30	△ 4	6.29	7.1	△ 2	
枯凋期 (月.日)	8.23	9.2	△ 10	9.27	10.4	△ 7	
茎長 (cm)	(6月20日)	22.3	16.8	5.5	21.2	17.8	3.4
	(7月20日)	66	42	24	88	64	24
	(8月20日)	69	45	24	111	79	32
茎数 (本/株)	(6月20日)	3.7	3.6	0.1	3.4	2.9	0.5
	(7月20日)	3.3	3.5	△ 0.2	2.9	3.1	△ 0.2
	(8月20日)	3.9	3.2	0.7	2.9	3.0	△ 0.1
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	4045	4187	△ 142	3176	3261	△ 85
	(9月20日)	—	—	—	4226	4502	△ 276
でん粉価 (%)	(8月20日)	13.6	15.2	△ 1.6	19.7	20.3	△ 0.6
	(9月20日)	—	—	—	20.4	21.6	△ 1.2
でん粉重 (kg/10a) (9月20日)	—	—	—	820	927	△ 107	
上いも数 (個/株)	8.6	9.5	△ 0.9	9.7	9.9	△ 0.2	
上いも平均重 (g)	103	99	4	111	109	2	
上いも重 (kg/10a)	3953	4196	△ 243	4769	4784	△ 15	
同上平年比 (%)	94	100	△ 6	100	100	0	
でん粉価 (%)	13.2	15.0	△ 1.8	20.5	21.8	△ 1.3	
でん粉重 (kg/10a)	—	—	—	930	995	△ 65	
同上平年比 (%)	—	—	—	93	100	△ 7	

注1) 平年値は前7か年中、平成15(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均

2) 6月定期作況報告の「男爵薯」における植付期の平年「5.12」は「5.13」に訂正する

9) てんさい

作 況：不良

事 由：移植栽培では、播種は平年より5日早い3月17日に行い、育苗中の生育は順調であった。移植は平年より2日早い5月6日に行った。移植後の低温により苗の活着は遅れ、生育はやや停滞気味であった。直播栽培では、播種は平年より2日早い5月6日に行ったが、出芽期は平年並であった。6月は高温・多照で推移したことから、6月20日には地上部生育は平年をやや上回り、7月20日には平年を大きく上回った。また、適度な降雨もあったことから、根部の初期肥大も良好であった。8月上旬～9月上旬の気温が極めて高かったことから地上部生育は抑制され、8月20日以降の生葉数および茎葉重は平年を下回り、9月20日の根中糖分は平年を大きく下回った。根重および根周は平年並か上回って推移したが、収穫時の根重は平年よりやや少なかった。収穫は平年並の10月20日に行った。移植栽培の根重は2品種平均で平年対比95%、根中糖分は93%、糖量は88%、直播栽培の根重は平年対比92%、根中糖分は94%、糖量は87%であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.17	3.22	△5	3.17	3.22	△5	5.6	5.8	△2	
移植期 (月.日)	5.6	5.8	△2	5.6	5.8	△2				
出芽期 (月.日)							5.19	5.19	0	
収穫期 (月.日)	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	
草丈 (cm)	(5月20日)	4.5	—		4.4	—		—	—	
	(6月20日)	29.0	26.2	2.8	28.8	26.3	2.5	15.1	14.0	1.1
	(7月20日)	63.7	56.3	7.4	59.4	52.9	6.5	64.2	50.6	13.6
	(8月20日)	67.3	62.3	5.0	59.8	58.8	1.0	70.0	62.0	8.0
	(9月20日)	64.7	64.0	0.7	59.1	58.4	0.7	67.1	65.0	2.1
生葉数 (枚)	(5月20日)	4.0	—		3.8	—		—	—	
	(6月20日)	12.6	11.2	1.4	11.9	10.5	1.4	7.1	6.6	0.5
	(7月20日)	21.7	21.3	0.4	22.2	20.4	1.8	20.3	19.4	0.9
	(8月20日)	25.6	27.4	△1.8	25.5	27.7	△2.2	24.7	26.6	△1.9
茎葉重 (g/個体)	(9月20日)	27.1	30.1	△3.0	26.9	29.9	△3.0	25.8	28.6	△2.8
	(6月20日)	127	101	26	115	96	19	17	15	2
	(7月20日)	850	687	163	876	671	205	720	500	220
	(8月20日)	857	913	△56	890	997	△107	906	871	35
根重 (g/個体)	(9月20日)	780	915	△135	842	977	△135	839	915	△76
	(6月20日)	29	18	11	25	18	7	1	1	0
	(7月20日)	296	275	21	357	282	75	154	130	24
	(8月20日)	634	648	△14	728	725	3	519	465	54
根周 (cm)	(9月20日)	913	875	38	1023	950	73	786	727	59
	(7月20日)	22.7	21.7	1.0	25.2	22.9	2.3	18.4	17.1	1.3
	(8月20日)	29.7	29.5	0.2	32.7	31.9	0.8	27.6	26.2	1.4
根中糖分 (%)	(9月20日)	33.9	33.1	0.8	37.6	35.4	2.2	31.1	30.8	0.3
	(9月20日)	13.47	15.44	△1.97	14.28	15.62	△1.34	13.52	15.16	△1.64

表 その2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	2,994	5,932	△2,938	3,517	6,030	△2,513	3,193	5,521	△2,328
根重 (kg/10a) (収穫期)	6,534	6,743	△209	6,672	7,124	△452	5,240	5,670	△430
同上平年比(%)	97	100	△3	94	100	△6	92	100	△8
根中糖分 (%)	16.45	17.77	△1.32	16.91	18.20	△1.29	16.74	17.76	△1.02
同上平年比(%)	93	100	△7	93	100	△7	94	100	△6
糖量 (kg/10a)	1,075	1,196	△121	1,129	1,307	△178	877	1,005	△128
同上平年比(%)	90	100	△10	86	100	△14	87	100	△13

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

5月の草丈および生葉数は、本年から調査開始したため、平年値はなし。

## 10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : やや不良

事 由 : 萌芽期は5月1日と平年より12日遅かったが、冬損程度は平年並であった。萌芽期が遅かったことに加え、5月中下旬の気温が平年より低く推移したことから、春の生育は遅れた。1番草の出穂始は平年より2日遅い6月16日で、出穂期は平年より2日遅い6月21日であった。6月中旬の気温が平年より高く、刈取り時の草丈は平年並に達したが、生草収量と乾物率は平年を下回り、乾物収量は平年対比84%と少なかった。2番草は、1番草刈取り後の気温が平年より高く推移し降水量にも恵まれたため、再生が良好であった。草丈、節間伸長程度が平年より高かったことから、生草収量は平年を上回ったが、乾物率が低く、乾物収量は平年対比102%と平年並であった。3番草の生育期間中は9月中旬を除いて気温が平年より高く推移し、降水量も多かったため、草丈は平年並であったが、乾物収量は平年対比114%と多かった。年間合計乾物収量は平年対比92%と平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

表 その1

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
萌芽期 (月.日)	5.1	4.19	12	
冬損程度	1.8	1.6	0.2	
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始 (月.日)	6.16	6.14	2	
出穂期 (月.日)	6.21	6.19	2	
出穂程度	1番草	7.3	5.3	2.0
節間伸長程度	2番草	4.0	2.9	1.1
刈取日(月.日)	1番草	6.23	6.20	3
	2番草	8.13	8.9	4
	3番草	10.7	10.4	3
倒伏程度	1番草	1.0	1.5	△0.5
病害罹病程度	1番草	1.0	1.9	△0.9
	2番草	2.5	3.6	△1.1
	3番草	4.0	4.3	△0.3
草丈(cm)	(5月18日)	24	36	△12
	(6月5日)	62	71	△9
	1番草	101	102	△1
	2番草再生時	45	35	10
	2番草	76	54	22
	3番草再生時	48	46	2
生草収量(kg/10a)	3番草	47	47	0
	1番草	2435	2582	△147
	2番草	1178	873	305
	3番草	609	536	73
	合 計	4222	3991	231
乾物率(%)	1番草	21.5	24.8	△3.3
	2番草	17.2	23.0	△5.8
	3番草	29.8	30.3	△0.5

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	525	625	△100
	同上平年比(%)	84	100	△ 16
	2番草	203	199	4
	同上平年比(%)	102	100	2
	3番草	181	159	22
	同上平年比(%)	114	100	14
	合 計	909	983	△ 74
	同上平年比(%)	92	100	△ 8

注1) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、平成21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

## 11) たまねぎ

作 況：不良

事 由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より4日早い3月2日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より2日早い3月9日に行った。育苗期間中は低温に推移し、苗の生育は緩慢であった。移植は、「改良オホーツク1号」は平年より3日遅い5月11日、「スーパー北もみじ」は平年より6日遅い5月18日に行った。移植時の苗質は、両品種ともに草丈は平年に比べて短く、生葉数及び葉鞘径は平年並であった。6月上旬までは、平均気温が低く推移したことから両品種とも生育は停滞した。その後の気温上昇に伴い生育は回復し、7月20日には、草丈、生葉数、葉鞘径ともほぼ平年並となった。7月下旬～8月上旬の気温は平年に比べて極めて高く推移し、倒伏期は、「改良オホーツク1号」では平年より3日早い8月1日、「スーパー北もみじ」では平年より11日早い8月4日であった。「スーパー北もみじ」は倒伏期以降の枯葉が甚だしく、平年より21日早い8月21日に枯葉期に至り、「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とも平均一球重は平年を大きく下回った。規格内率は、「改良オホーツク1号」では平年並、「スーパー北もみじ」では平年よりやや優れたものの、総収量は平年より低く、規格内収量は、「改良オホーツク1号」では平年比で83%、「スーパー北もみじ」では平年比71%であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.2	3.6	△ 4	3.9	3.11	△ 2	
出芽期 (月.日)	3.16	3.19	△ 3	3.21	3.24	△ 3	
移植期 (月.日)	5.11	5.8	3	5.18	5.12	6	
球肥大期 (月.日)	7.7	7.8	△ 1	7.27	7.22	5	
倒伏期 (月.日)	8.1	8.4	△ 3	8.4	8.15	△ 11	
枯葉期 (月.日)	8.16	8.25	△ 9	8.21	9.11	△ 21	
収穫期 (月.日)	8.27	9.4	△ 8	9.14	9.17	△ 3	
草丈 (cm)	移植時	19.6	25.5	△ 5.9	20.9	24.6	△ 3.7
	(6月20日)	37.3	42.9	△ 5.6	24.7	33.6	△ 8.9
	(7月20日)	74.2	75.1	△ 0.9	85.7	80.0	5.7
生葉数 (枚)	移植時	3.2	3.2	0.0	3.5	3.2	0.3
	(6月20日)	5.6	6.1	△ 0.5	5.0	5.8	△ 0.8
	(7月20日)	9.1	9.2	△ 0.1	11.1	10.4	0.7
葉鞘径 (mm)	移植時	3.3	4.1	△ 0.8	4.3	4.0	0.3
	(6月20日)	9.7	10.6	△ 0.9	7.3	8.7	△ 1.4
	(7月20日)	18.9	19.7	△ 0.8	21.0	21.4	△ 0.4
葉身生重 (g)	(7月20日)	107.5	115.2	△ 7.7	159.7	129.5	30.2
球生重 (g)	(7月20日)	123.5	98.2	25.3	73.1	50.0	23.1
	(8月20日)	223.0	256.0	△ 33.0	203.1	248.7	△ 45.6
総収量 (kg/10a)		5883	7293	△ 1410	5302	7865	△ 2563
規格内収量 (kg/10a)		5169	6227	△ 1058	4782	6699	△ 1917
同上平年比 (%)		83	100	△ 17	71	100	△ 29
規格内率 (%)		88	87	1	90	84	6
平均一球重 (g)		222	247	△ 25	200	268	△ 68

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)を除く5か年の平均。